

患者さまへ

ペットの飼育経験が入院後の高齢者の身体機能に与える影響に関する研究

この研究は、通常の診療で得られた記録を使って行われます。

このような研究では、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さまの一人ずつから直接同意を得ることが困難な場合には、研究の目的を含む研究の実施についての情報を公開することが必要とされています。

なお、研究結果は学会等で発表されることがありますが、その際も個人を特定する情報は公表いたしません。

1 研究の対象	2013 年 4 月～2023 年 4 月までの期間、自宅から当院救急外来を受診し、肺炎の診断で初回入院した 65 歳以上の方で、ペットの飼育歴の有無について診療情報内に記載のある方
2 研究目的・方法	これまでの研究で、身体的虚弱が将来の障害リスクを大幅に高めることが報告されており、フレイル予防は、障害を回避し、健康的な加齢を成功させるために重要であるといわれています。また、最近の研究では、犬を飼っている人は飼っていない人に比べて身体活動レベルや社会的機能が低いこともあり、日本人の高齢者において犬の飼育経験がフレイルの発生を減少させる可能性が示唆されています。 本研究では、ペット飼育歴の有無ごとに、日常生活動作を数値化して比較し統計学的に検討することにより、ペットの飼育歴が入院生活に及ぼす影響について調べます。それにより入院によるフレイルの進行を抑制する方法を明らかにできる可能性があります。 研究の期間：施設院長許可（2023 年 8 月予定）後～2026 年 3 月
3 情報の利用拒否	情報が当該研究に用いられることについて、患者さまもしくは患者さまのご家族等で患者さまの意思及び利益を代弁できる代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としません。その場合は、「5. お問い合わせ先」までお申出ください。その場合でも患者さまに不利益が生じることはありません。 ただし、ご了承頂けない旨の意思表示があった時点で既にデータ解析が終わっている場合など、データから除けない場合もあり、ご希望に添えない場合もあります。
4 研究に用いる情報の種類	年齢、性別、病歴、肺炎の重症度、血液検査結果、ペットの飼育歴の有無、日常生活動作に関する情報 等
5 研究実施体制	[研究機関(情報を提供する機関)] 湘南鎌倉総合病院、救命救急総合診療科・鎌口清満 [外部への情報の提供] 提供を行なう機関の長: URL: https://www.skgh.jp/#modal データの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。コード番号一覧表は、提供する機関の個人情報管理者が保管・管理します。 [研究委託機関(情報の提供を受ける機関)]

	国際医療福祉大学成田病院、緩和医療科・石原洋
6 お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。 研究責任者、照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 湘南鎌倉総合病院 救命救急総合診療科 鱈口清満 神奈川県鎌倉市岡本 1370-1 電話番号:0467-46-1717

2025 年 4 月 9 日作成(第 2.0 版)